

■ 棲みやすい都会 名古屋

名古屋駐車協会 会長 野村 和生

今回の原稿執筆にあたり過去の機関誌を見返してみたところ、「PARKING」215号に名古屋駐車協会長のエンゼルパーク社長(当時)、川村徹氏の寄稿を見つけました。緻密な調査に基づき、かつ格調高い文章であり、感銘を受けました。ぜひ皆さんにご覧いただきたいのですが、簡潔に記せば、「空襲により焼け野原となった名古屋の復興事業は、行政の強い意思の下、幹線道路の敷設と寺院墓地の移転という土地区画整理から始まった」、「その礎があって、モータリゼーション到来を想定した都市計画駐車場の展開が成り立った」、「官民連携のもと、都市計画駐車場8か所のすべてが地下駐車場として整備、運営されている」というものです。8駐車場は名古屋の中心地である、名古屋駅周辺に2つ、栄周辺に6つが配置されています。

この稿は、川村氏の補足のような形で書いてみたいと思いますが、散文駄文になることをご容赦ください。

名古屋駐車協会の設立とその背景

名古屋駐車協会は、「駐車事業の発達を図り、交通問題に関して社会の福祉に寄与すると共に会員相互の共存共栄の実をあげることを目的に、1965年6月14日に設立されています。設立後の協会は経済成長に伴い順調に会員を増やし、現在では正会員として名古屋市内の30駐車場の所有者、管理者29社と、賛助会員12社を合わせた41会員で活動しています。

協会開設当時の名古屋の都心にはまだ市電が走り、今から思えばどこか牧歌的な風景が残っていましたが、設立の数年前から急激な経済成長に伴って自動車交通量が増加し、交通渋滞と駐車場不足が社会問題となりつつありました。このような状況のなか、名古屋市では1959年10月に施行された「名古屋駐車場条例」に基づいた駐車場整備計画が62年に発表されます。そして、64年に開業した栄公園駐車場(現アートパーク東海駐車場)を皮切りに、70年代にかけて総面積8.1ha、総収容台数3,020台に及ぶ都市計画駐車場が整備されました。



市電が走る名古屋駅周辺、68年ごろ



渋滞にまきこまれたバス
(名古屋市北区)

名古屋は地下街が充実していると言われますが、名古屋初の地下街が誕生したのが私の生まれ年の57年のこと。名古屋駅に3社、栄に1社が同年に開業したのです。その後は地下鉄の開通・延伸と利用客の増大に歩調を合わせるように、地下街の拡充が推進され、現在では市内に12社が運営する14の地下街があります。

70年以降の民間経営の地下街(百貨店の地下を除く)の建設に際しては、モータリゼーション到来に備えて都市計画駐車場を併設することが認可を得るための条件のようになりました。名古屋駅東のユニモール、名古屋駅西のエスカ、そして栄北の当社セントラルパークが該当します。

一方で、都心部に集中する百貨店などの商業施設や企業のオフィスなどが隣接する地域において駐車場不足を補ったのが、久屋駐車場(名古屋市営)、エンゼルパーク駐車場、若宮パークです。いずれも駐車場に特化した施設ですが、前述のアートパーク東海駐車場を含めた4つは、「地上が公園、地下が駐車場」という、いわば「街づくり」を担った一体型の開発となっています。名称に「パーク」が付いているのは、「公園」と「駐車場」という英語の意味を持ち合わせていると感じます。ちなみに当社セントラルパークの地上も公園になっています。

以上のような経緯もあり、名古屋駐車協会の会長職と事務局は、都市計画駐車場(通称は公共駐車場)のうちの民間6社の持ち回りとなっており、現在は当社セントラルパークが務めています。



久屋地下駐車場と同時施工した栄・矢場町間の地下鉄工事
地上は久屋大通公園となる

名古屋の駐車場事業の現状と今後

新型コロナ感染による市民生活と経済活動の制約が続くなか、駐車場経営は厳しさを増しています。公共駐車場では売り上げが一昨年度(コロナ禍以前)比で90.5%という過去に類を見ない落ち込みとなっています。商業施設・文化施設の集客減、テレワーク・在宅勤務・出張自粛といった移動の制限がその理由でしょうが、コロナ感染の収束時期の予測やwithコロナの社会変容を想定して対策を講じることは、現状ではとても難しいと思います。新型コロナの影響は全国共通の事情であり、課題に対する対策は当たり障りのないコメントになりそうですので、ここでは控えます。

名古屋駐車協会には、公共駐車場以外に路上駐車場、路外駐車場を経営されている会員がいます。駅や繁華街から近いか遠いか、平置きかタワーか、台数規模など特色はさまざまです。最近ではコロナ禍のため協会の活動が制限されていますが、私は機会があれば次のような言葉をお掛けすることにしています。「私たちは個々社では競合する同業者かもしれないが、ビジネスエリアが違うということを考えると業界のなかで協業する意味はあると思います。手を携えて困難を乗り越えてゆきたい」と。

名古屋自慢

ある調査会社が「全国の県のうち旅先として選ぶならば何処か」という趣旨の調査をしたところ、愛知県が最下位だったとか。その結果を捉えて地元の放送局が旅行者らしき人々に街頭インタビューをしたところ、「最下位だったから、興味が湧いて来てみた」「これまで来たことがないし、此処なら空いていそうだから」という不思議な答えが返ってきて、「これもありかな」と苦笑しました。

私は大学時代と会社員時代の駐在で5度、通算20年ほどの東京暮らしを経験しました。東京と比較した名古屋は、「都会と田舎が適当に混ざっている住みやすさがある」、「魚と肉、野菜は最上の食材がある。伊勢湾と三河湾そして隣県の三重には尾鷲という魚の宝庫があり、飛騨・松阪・伊賀などブランド和牛が多い」。食材がいいからこそ、「街なかの店は、(美味しい！と声を上げるほどではないにしても)味にハズレがない、コスパが高い」、「居酒屋に名店が多い」。

食べ物では、タモリに名古屋名物として紹介されてから40年近く経つ「エビフライ」を筆頭に、味噌煮込みうどん、ひつまぶし、きしめん、小倉トースト、あんかけスパ、みそカツ、手羽先、台湾ラーメン、天むすなど。これらは、自虐的に聞こえるかもしれませんが、B級のオススメ。また、喫茶店のモーニングサービスなど、何か独特な工夫が名古屋名物になる場合があります。一見とりとめもないこの漠然とした感じが名古屋らしいともいえるかもしれません。



宮鍵のひつまぶし



喫茶店のモーニング
これで350円！

食べ物以外で自信を持ってお薦めするのは、2011年3月にリニューアルオープンした名古屋市科学館にある世界最大のプラネタリウム、国宝「源氏物語絵巻」や1万件あまりの「大名道具」を所蔵する徳川美術館といった「施設」。「祭り」では、地元が輩出した三英傑の織田信長、豊臣秀吉、徳川家康(に扮した市民)が650人を従えて行進する「名古屋まつり」、大道芸人が集う「大須大道町人祭り」、ご存じ「熱田神宮例祭(熱田まつり)」、そして全国規模になった「にっぽんど真ん中祭り」、世界規模になった「コスプレサミット」などなど。

ぜひ一度お越しいただき、名古屋をお楽しみください。住みたくなるかも!?



名古屋市科学館



徳川美術館

※写真はすべて名古屋市のホームページから転載しています。